

日韓の医師ら技術交流

最新手術治療に理解

製鉄記念室蘭病院

胆振Spineセミナーが、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院で開かれ、ソウル大脳神経外科のチャン・キー・チャン教授が、頸椎後縦靱帯骨化症の最新手術治療などについて講演。製鉄記念室蘭病院で行った手術にも参加するなど、両国の医師らが、治療法に関する国際技術交流を図っていた。

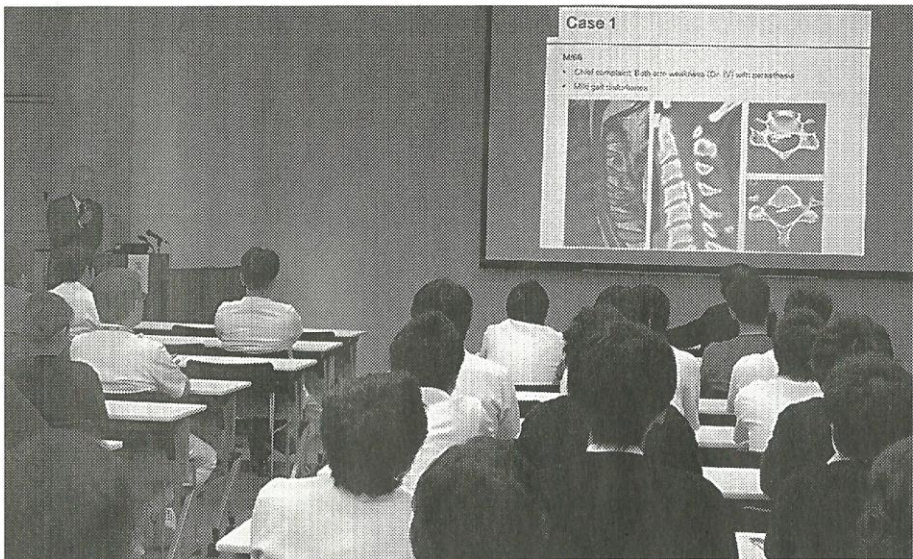
チャン教授は韓国の低侵襲脊椎外科学会の代表。最小侵襲脊椎安定化術(MIST)の発展と、

若手医師の教育を目的にした北海道MIST研究会の代表世話人・小谷善久副院長(日本脊椎脊髄病学会評議員・指導医)との国際技術交流を目的に来蘭。セミナーには西胆振の医師や看護師、放射線技師ら70人が参加した。

後縦靱帯骨化症は、脊柱を縦走する後縦靱帯が骨化し、知覚障害や運動障害などを引き起こすため、症状が進んだ場合は手術療法での対処が必要という。チャン教授は

骨化部分の大きさや範囲、彎曲などの病態によって、「前方法と後方法を使い分けるべき」と強調。技術的に難しいとされる前方法の技術的なコツや困難な部分、合併症予防の注意点なども説明した。

また、小谷副院長が執刀した重度脊柱後側彎症のMISTに参加。北海道・東北地区で初導入された「術中モバイルCTとコンピュータナビゲーションシステム」を用いた術式を通じて、技術的な交流などを図っていた。(松岡秀宜)



チャン教授が「頸椎後縦靱帯骨化症の最新手術治療」などについて講演した「胆振Spineセミナー」